

りんりんふえす2016 記念冊子



THE BIG ISSUE Support Live vol.7

sing with your neighbors

2016年10月2日(日)

寺尾紗穂/マヒトウ・ザ・ピーポー/ソケリッサ!
原田郁子/知久寿焼/二階堂和美

ダンスする社会へ

寺尾 紗穂

開催七回目にして、売り切れ御免となったりりんりんふえす。人気の出演者がそろった効果もあるだろうけれど、それでも、半数は毎年のように足を運んでくれる人々だ。加えて新しいお客さんもたくさん。ありがたいことだと思う。

今年の座談会は、「表現すること 生きること」。当事者としてはソケリッサのメンバーが登壇する。路上生活経験者からなる舞踏グループ・ソケリッサとは、2015年の橿円の夢ツアーを経て、金沢21世紀美術館のイベントや、山形ビエンナーレでの共演とご縁が続いている。

金沢の楽屋でソケリッサメンバーのKさんが、歌を歌っていたので何の歌か尋ねると「え、これ？あの、イタリアの歌なんです」という。しかしKさんが歌っているのは日本語だ。「日本語の訳もあるんですけどね、ずいぶんニュアンスが違うもんだから…」。どうやらKさんが独自に訳したものらしい。Kさんはロンドン帰りで以前もキャロル・キングの日本語訳などを試みていた。しかし、イタリア語ができるとは聞いていない。「ニュアンスが違う」ことがわかるのだとしたら大したものだ。イタリア語ができるんですか、と尋ねると、「うん、まあ、その、感覚でね」と照れている。

後日聞いたところによると、ロンドン時代にイタリア人の彼女がいたらしい。その訳がどれほど正確なものなのかわからないけれど、目の前のKさんは甲高い声で自分の訳でとうとうと歌っている。いつの間にか振りまでついている。そして、21世紀美術館のステージ上でもそれを披露したのだ。

人が自由に表現するというのはいかようにも、と思う。何かが違うと思って、自分のやり方でやってみる、それを臆さず人に伝える。歌で、踊りで、言葉で。正確かどうかはもはやどうでもいいのかもしれない。型からはみでてこそ表現、かもしれない。

数年前のりんりんふえすで、児童養護施設出身のYくんが座談会に参加してもらったことがあった。その後、彼に改めて話を聞いたり、福祉の研究者になっている同級生に話を聞いたり、地方や東京市部の児童養護施設にも何度か話を聞きに行った。色んな人の話を聞きながら考えたことも「表現」についてだった。

施設を出た後の子供たちの就職について聞いたとき、うまく就職できた子も、心を病んでいる子が多いので、途中で挫折してやめてしまうケースが多いと聞いた。施設出身者の就職を応援するNPOなどもできており、就職するまでを実績にするが、その後のケアがほとんどないことが問題、と出身者であるYくんは言っていた。

耐えること、我慢すること、やりぬくこと。それらは心に芯が育っている人にはできることだ。しかし小さいころにその芯を育てる機会を失い、大人になってしまった、そういう環境に生きてくるしかなかった若者たちが、挫折したときに、「忍耐力がない」「転落するのは自己責任」と責めることは酷だと思う。スタッフの方によれば、会社の挫折組は大体男性は建設現場、女性は水商売に流れると言う。それらの仕事が悪いとは言わない。適性のある人もいるだろう。でも、あまりにも選択肢がない。

世の中には色々な仕事がある。私はたまたま書くことと歌うこと、表現することを仕事にしている。表現だけで食べていくのは大変だが、何かの仕事をしながら表現を続ける人もたくさんいる。そもそも仕事の一つでなくたって全然いい。

施設を出た子供たちがせっかく会社に就職しても挫折してしまう、という話を聞いたとき、直感的に思ったのは、二つのことだった。一つはそこに適性を見いだせた人はいいけれど、そうでない人が会社に入ってフツの仕事をする必要はないだろう、ということ。もう一つは「表現」にかかわることが、彼らが過去を見つめながらも、その心を強いものにしていくのではないだろうかということだった。

「表現」という行為そのものに癒しの力があることは、私自身が創作する中で感じることだ。「表現」にすることができたとき、波立っていた感情も過去の出来事も行き場所を与えられて、前に進むことができる。あるいは、そんなに簡単に片付かない根の深い感情であっても、「表現」の中で美しく描くことで、それはある種の自分にとっての夢や祈りになる。少しずつでも前に進むために、過去に重たいものを背負いこんでいる人ほど、本当は自己と向き合って表現によって吐き出すことが必要ではないか。

これは私の直感に過ぎないけれども、少なくともフツの会社に入って社会不適合の烙印を押されて落ち込ませる前に、彼らと一緒にできること、こんなこともできるよ、と選択肢を広げること、やっていかなければいけないことはまだまだあるのではないだろうか。彼らの心にとって何が一番望ましいのか、これからでも心の芯を作っていくことができるとすれば、そのために必要なきっかけとは何なのか。

施設では、例えば、ピアノの先生がボランティアで来てくれるところもある。でも、その方が何らかの理由で来れなくなってしまうと、そこで子供たちのレッスンは途絶えてしまう。施設の方も、誠意をもって精一杯のお仕事をされていると感じたが、「従来」のあり方から一歩も二歩もはみ出していかなければ、根本の問題は変わっていかないように感じた。

先月公開された野中真理子監督作品「ダンスの時間」というドキュメンタリーを見た。この映画にはコンドルズの近藤良平さんが「正直言って最高です。何がいいかっていうと、全然ダンスの映画じゃないです」というコメントを寄せているが、私が印象に残ったのも、主役のダンサーである香織さんが認知症の母親に懸命に向き合う姿だった。「だめです、だめです」と否定語を重ねる母親に、「だめじゃないよ、上手にできてるよ」と香織さんは何度も語りかけていた。つまり、こうやって人に真正面から向き合うこと、視線を、言葉を、ぬくもりを投げかけ、交し合うこと。これがダンスの本質であり、香織さんはこの瞬間も踊っている、表現しているんだと感じた。

先日「CFC(チャンス・フォー・チルドレン)」というNPOの方に会う機会があった。このNPOは、個人や企業から集めた寄付をもとに、東日本大震災で経済的に打撃を受けた家庭や貧困家庭の子供たちに塾や習い事に使えるクーポンを送るという活動を続けている。すべての希望者には到底渡せないため、選考しているが、このシステムの画期的なところは、子供自身が選択肢を与えられているという点だ。

寄付で何かを買って渡されるのでも、現金を直接もらうのでもなく、自分に必要と思う習い事にクーポンで通うことができる。そして、たくさんの人が自分の進みたい道のために支援してくれた、という事実は子供たちの中で決して小さくないあたたかな事実の重みとして残っていくようだ。CFCというNPOを通してはいるけれど、ここにも一人の人間を見守る人と、見守られて進む人との小さなダンスが生まれている。相手の姿は見えないけれども、心と心は寄り添って互いにそのリズムに耳すましている。

人は人に優しい、と信じている。無知や偏見、社会のシステム、その他様々な要因があってそれが疎外される。その疎外要因を一つ一つ見つけて取り除き、社会に温かみを取り戻す活動に、すでに取り組む人々もいる。NPO認定法人「もやい」の理事稲葉さんは、りんりんふえす実行委員会にも当初から加わってくださっているけれど、最近「つくろいファンド」という活動で、好意的な大家さんと連携して住む場所に困った人が一時的に利用できるシェルター物件を複数スタートさせている。「つくろい」という言葉は「繕う」からきている。ちくちくと地道に社会のほころびを直していく、そんな思いがにじむ素敵な言葉だ。

一人の人を見つめること、一人の声に耳を傾けること。

社会のあちこちでたくさんのダンスが生まれるように。

人は優しい、その優しさをすぐに思い出せる社会になるように。

ご来場ありがとうございます。

会場案内図



- ざぶとん席は、お子さま連れをご優先下さい。
- ホール内の飲食は禁止です。
- 飲食はコチラか会場外でお願いします。

➤ 壊れやすい壁の装飾があります。お子さま連れの方はご注意ください。



ベトナム料理の炊き出し・販売



シューズの販売

べてぶくろ

もやい



パン・軽食の販売



フェアトレードのコーヒーの販売

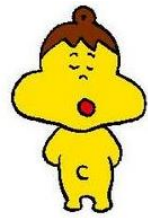


雑誌『ビッグイシュー』バグナンバー含め販売者が販売 & その他物販アーティストグッズ等

◆ 当日の各団体の配置は変更になることもあります

当日は例年以上に混み合うことが予想されます。お子さま連れの方も多くいらっしゃるのので、どうかお席を譲り合って、なごやかに過ごしいただければと思います。

りんりんふえす2016 出演アーティスト



マヒトウ・ザ・ピーポー

「りんりん 鈴が鳴って、ふりかえったら車輪がからからとまわって、長い一本道の途中、そう、この星には人間がいるらしい。

りんりん 鈴がなって、名前を呼ばれた気がして、振り返っても、そこに生き物はいなかったけれど、わたしはしかし、歌いにいくことにしたのです」



ソケリッサ!

「踊ります！今年もこの場に立てる事をありがたく思います。」



寺尾紗穂



知久寿焼

「いらっしゃいませ。きょうはこのお寺さんでたのしみましょう」

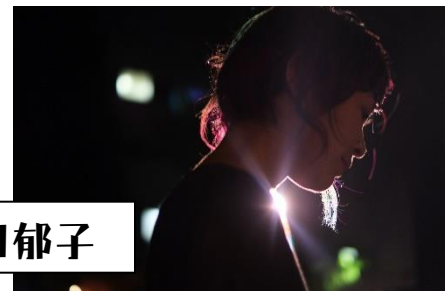


二階堂和美

「りんりんふえす。はじめまして。おじゃまします。どんな一日が待っているんだろう。

んー はあっ!!! (←活)」

原田郁子



「りんりんふえすのことが知ったのは2014年。その数年前に知り合った、“ひとさじの会”のメンバーでもある浄土宗のお坊さんから教えてもらいました。寺尾さんとの出会いはさらにかかのぼって2006年。ほんの挨拶をした程度だったけど、彼女の音楽にとどまらないこうした活動に尊敬の念を抱いてきました。それから11年。時が流れ、いろんな縁が繋がって、こうしてご一緒できることがとても嬉しい。ようやくこれだよ、りんりんふえす！なんまんだぶ！」

これまでの軌跡(2011～2015年)

❁参加された皆さんの声



寺尾さんのピアノと歌に合わせてホームレスの方が自由な表現で踊る場面は美しく潤みました。ビッグイシュー販売員で馴染のおじさんがいるので、次はこのフェスの事話してみようと思います。

イベントで今まで知らなかったホームレスの人達の事情が知れて、知らなかったバンドも知れて、よかったな。



Sing with your neighbor
THE BIG ISSUE Support Live vol.4
2013年10月13日(日) 外苑前 梅窓院 祖師堂
開場 14:00 開演 14:30 前売 2,000円 当日 2,500円 (BIG ISSUER 300円)
加川良/NRQ/七尾旅人/寺尾紗穂/ソケリッサ/石橋幸

炊き出しのおにぎりと豚汁が、とっても美味しかったです。特別なものではないのだろうけれど、ほっとする味。コーヒーとクッキーも、美味しかったです。パンは、おうち帰ったら食べます。皆さんの心遣いがとても嬉しかったです。



Sing with your neighbor
THE BIG ISSUE Support Live vol.3

2012年10月6日(土) 外苑前 梅窓院 祖師堂
開場 14:00 開演 14:30 2,000円 (税込・入場自由)
友部正人/片想い/寺尾紗穂/木蓮/ソケリッサ/Broom Duster KAN/なざら健吾

ソケリッサという路上生活者及び路上生活経験者によるダンスグループ。暗黒舞踏のようで目が離せなかった。涅槃を超えて極楽浄土に行ったら、こういう具合に人々が踊ってるのでは？と思えてならない

駅から降りて、りんりんふえすの会場まで行く道すがら、案内看板を持っているビッグイシューの販売さんがいた。話しかけて、二言三言会話をしたが、言えなかった言葉を呟きます。

「ありがとう！迷わず来れました」



Sing with your neighbor
THE BIG ISSUE Support Live vol.5
2014年12月7日(日) 東京 外苑前 梅窓院 祖師堂
開場 14:00/開演 14:30/前売:2,500円/当日:3,000円(BIG ISSUER 350円)

Gotch/寺尾紗穂/あたち麗三郎カルテット/新倉社朗/ソケリッサ/三輪二郎



Sing with your neighbor
THE BIG ISSUE Support Live vol.6
2015年10月4日(日) 東京 外苑前 梅窓院 祖師堂
開場 14:00/開演 14:30/前売:2,500円/当日:3,000円(BIG ISSUER 350円)

寺尾紗穂/イルリメ/柴田聡子/とんちピクルス/テニスコート/ソケリッサ!



有限会社 ビッグイシュー日本

ビッグイシューはホームレスの人々にモノやおカネではなく「チャンス」を提供する事業です。

『ビッグイシュー日本版』という質の高い雑誌をつくり、ホームレス状態にある人の独占販売とすることで、「ホームレスの人しかできない仕事」をつくっています。

1991年にロンドンで生まれ、日本では2003年9月に創刊しました。しくみは、『ビッグイシュー日本版』をホームレスである販売者が街頭で販売します。1冊350円の雑誌を売ると半分以上の180円が彼らの収入となります。最初10冊は無料で提供し、その売り上げ（3,500円）を元手に、1冊170円で仕入れていただきます。

社会問題の当事者になった人がその問題解決の担い手になって初めて、その社会問題は解決されると私たちは考えています。販売者となった人たちは私たちのビジネスパートナー。このような考えで、私たちは日本を居心地のいい、チャンス「豊かな」社会に、そして安心して生きられる社会に変えたいと思っています。

街角でビッグイシュー販売者を見かけたら、ぜひお声をかけてみてください。



【URL】www.bigissue.jp

【本社】〒530-0003 大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4階 【TEL】06-6344-2260

【東京事務所】〒162-0065 新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室 【TEL】03-6802-6078



認定NPO法人 ビッグイシュー基金

『ビッグイシュー基金』とは、有限会社ビッグイシュー日本を母体に設立された非営利団体です。ビッグイシュー日本版創刊から約4年後の2007年に設立されました。ビッグイシュー日本の活動を通して、ホームレスの人々の自立には、就業を含めた総合的なサポートが必要であると考えたからです。

2008年4月にNPO法人の認証を、2011年には国税局から認定を受けました。これによりNPOビッグイシュー基金への寄付は税控除が受けられるようになりました。貧困問題という大きな氷山の頂点ともいえるホームレス問題の解決から取り組むことで、ビッグイシュー基金は、「失敗しても何度でも再チャレンジできる」「誰にも居場所と出番がある」社会の形成を目標として活動しています。

生活自立、就業、文化・スポーツ活動などの多面的なサポート事業を行うほか、生きやすい社会をととのえるため、ホームレス問題解決のネットワークづくりや政策提言活動や市民が活動に参加する機会の提供などを行っています。

ホームレス問題は、今、あなたのすぐ隣で起きている出来事です。そして、ホームレスという人種はどこにもいません。ホームレス状態におかれている人がいるだけなのです。

まず、路上で暮らす「人生をあきらめない」人たちの声に、耳を傾けてみてください。そして、生きやすい社会をつくるために、一人ひとりができることを一緒に考えてみませんか？



【URL】www.bigissue.or.jp

【事務局本部】〒530-0003大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4階 【TEL】06-6345-1517

【東京事務所】〒162-0065新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室 【TEL】03-6380-5088



認定NPO法人 自立生活サポートセンター・もやい

つながりの中で生きるために

経済的に貧しく人間関係においても孤立している…。人間関係の貧困を象徴する「アパートに入居したくても連帯保証人がいない」という問題は、ホームレス状態からの自立を妨げる大きな要因です。

〈もやい〉では、アパート入居に際し連帯保証人を引き受けると共に、共通の課題を抱える当事者同士の交流を通じて、社会的な孤立状態の解消を目指しています。人間関係を新しく紡ぎ、安心して地域社会での生活を築き、「困った時はお互い様」と言えるつながりを作るための活動を行っています。「自立」とは、ひとりで生きることではなく、つながりの中で生きること…それが私たちの活動指針であり、理念です。

～活動内容～



入居支援事業

路上・公園・施設・病院など広い意味でのホームレス状態にある方がアパートでの生活を始めるにあたり、賃貸借契約時の連帯保証人や緊急連絡先の引き受けをおこなっています。



生活相談・支援事業

毎週火曜日には事務所で面談による相談に応じています（面談無料）。また、毎週火曜日と金曜日に「もやいホットライン」を開設し、生活に困窮している人々のさまざまな相談に応じています。



交流事業 ～居場所づくり～

誰でも気軽に立ち寄れる「寄り場」として交流サロン「サロン・ド・カフェ こもれび」をはじめ、さまざまな居場所を定期的にかけています。

「コーヒー焙煎プロジェクト」では、いろいろな境遇にあるメンバー達で、フェアトレードコーヒー「こもれびコーヒー」の焙煎・販売にも取り組んでいます。丁寧なハンドピックにより厳選された豆の味わいを、是非ご賞味下さい。



広報・啓発事業

地方自治体などの公的機関に対し社会的弱者である当事者の立場から提言を行ったり、ニュースレターやウェブサイトなどを通じて情報発信を行います。また、学校や地域での講演・啓発活動も積極的に行っています。



特定非営利活動法人

自立生活サポートセンター・もやい

〈事務所〉〒162-0814 東京都新宿区新小川町7-7 アゼリアビル202号室

【TEL】03-3266-5744 (火・金)

【URL】<http://www.npomoyai.or.jp/>

資金カンパを随時受け付けております。クレジットカードのご利用も可能になりました。詳しくはホームページをご覧ください。

社会慈業委員会 ひとさじの会



わたしたちひとさじの会は、2009年4月7日に浄土宗僧侶が設立したお念仏の信仰をもって社会的弱者の支援を行う団体です。浄土宗がかつて「社会事業宗」と呼ばれていたことにちなみ、「慈」の字を入れて正式名称を「社会慈業委員会」とし、法然上人の伝記にある、上人が重湯を路上の病人に一さじずつ口元に運ぶ姿に学び、会の通称を「ひとさじの会」と命名しました。

◇活動内容

- ① 生活困窮状態の方の葬送支援、及び追悼法要
- ② 浅草における炊き出し・夜回り配食・医療品の配布
- ③ 定例会(毎月)・勉強会・講演会など
- ④ 寺院による米支援の呼びかけ ー災害用備蓄米・古米の活用推進ー
- ⑤ 寺院・僧侶による社会的弱者支援のモデルづくり
- ⑥ 東北被災地支援活動 ー祈りの道プロジェクト・子ども会・仮設カフェー
- ⑦ プチ修行 ーお坊さんと一緒に念仏を称える為先会ー



◇ボランティアの募集 ー心をこめてむすびますー

ひとさじの会では、自分たちでご飯を炊いて、ひとつひとつ丁寧におむすびをつくってお配りし、より多くの人とのご縁を「むすんで」いきたいと考えています。この活動にボランティアとして一緒に活動していただける方、ぜひご連絡ください。よろしく願い申し上げます。



活動日程: 毎月第1、第3月曜日(炊飯15:00~ 配食20:00~22:00)
配食集合: 浅草吾妻橋たもとの交番付近
連絡先: 090-6115-8147 吉水岳彦(事務局長)

【URL】 hitosaji.jp 【E-mail】 hitosaji@son.petit.cc

祈りの道 気仙三十三観音霊場 復興プロジェクト



◇活動趣旨

気仙三十三観音霊場も、東日本大震災において、9つの霊場が津波の被害を受けました。お堂や管理者の住居が被災したり、観音像が流されたりと被害の程度は様々です。

ひとさじの会では、人々の心のよりどころである観音霊場を再興し、地元の方々に、亡くなった方々の慰霊のため、そして、ご自身の心の安寧を祈るためにお参りを頂きたい、また、全国の方々に参り頂き、地域の活性化に少しでも寄与したいと考え、「祈りの道 気仙三十三観音再興プロジェクト」を始動させました。現在まで、①霊場マップの発行、②霊場HP作成、③朱印・納経用紙の作成、④講演会の実施、⑤徒歩巡礼道の整備を行って参りました。活動の詳細につきましては、下記のHPをご覧ください幸いです。

◇気仙三十三観音霊場とは

観世音菩薩とは、衆生の苦しい悲しいという声を聞き、それぞれの人にあった姿に変化して、悩み・苦しみを救い、願い事を叶えてくれるという仏さまです。観音霊場の巡拝は、平安時代に始まったと伝えられますが、岩手県の陸前高田市、大船渡市、住田町のいわゆる気仙地域にも、江戸時代半ばの享保三(1718)年、高田村の検断役佐々木三郎左右衛門知則が、父母の追善供養のために選定し、「気仙三十三観音霊場」が開かれました。平安時代、征夷大將軍として東北に派遣された、坂上田村麻呂に関わる伝説を持つ「気仙三観音」や、江戸時代に東北の大富豪として名を馳せた稲子澤家がお祀りしていた百一観音など、様々な物語を抱え持ったたいへん興味深い霊場です。ぜひ、気仙の観音様をお参り頂きたく存じます。



キーン・ジャパン合同会社

〒150-0035 渋谷区鉢山町13-16

【TEL】 03-6416-4808

【URL】 www.keenfootwear.com



◇**ABOUT KEEN** 「サンダルは、つま先を守ることができるのだろうか？」2003年、創業者ローリー・ファーストのシンプルな疑問をきっかけに、KEENの歴史は幕を開けました。つま先を衝撃から守るトゥ・プロテクション機能を搭載した、KEENの記念すべき最初のモデル“NEWPORT(ニューポート)”がその答えです。その革新的なアイデアと、デザイン的にも優れた全く新しいタイプのサンダルの登場はスポーツシューズの世界に革命をもたらし、KEENの名前を瞬く間に世界中に広めました。私たちは「屋根のない場所すべてがアウトドア」と考え、多くの方の生活に、KEENのアイテムが役立ってくれることを願っています。

◇**HybridLife** 「CREATE(創造すること)」、「PLAY(楽しむこと)」、「CARE(気づかうこと)」という3つのキーワードを組み合わせた《ハイブリッド・ライフ》というコンセプトのもとに、KEENのシューズは地球に負荷をかけない方法で生産したフットウェアを展開しています。

◇**KEEN EFFECT** 「人や地球を気づかうことは、より良い変化をもたらすことにつながる。」この信念のもと、KEENはパートナーである団体と協力し、「より良い社会・より良い地球環境」を次世代に継承していくため、環境保護活動や社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

<**ビッグイシュー日本**> 生活をする上で欠かせないのが足元を守る靴。公共の交通手段を使えないホームレスの方々は、長距離を歩いたり、サイズの合わない捨った靴を長時間着用することで、足を痛めてしまうケースが多くあります。フットウェアブランドであるKEENは、ビッグイシューを販売するホームレスの方々に靴を提供することで、足元からビッグイシュー日本の活動を支えています。また、販売者さんの社会復帰のきっかけとなるような活動をサポートしており、今年の「りんりんふえす」では去年に続き、ビッグイシュー販売者さんが「イベント販売体験」として、接客&シューズ販売にチャレンジします。チャリティ物販の売上はりんりんふえす実行委員会に寄付され、運営費の一部として活用されます。



創業モデル「NEWPORT (ニューポート)」



KEEN棚田バンク



りんりんふえす2015



路上文学賞 とは？



路上文学賞は、ホームレスの人たちが書いた文学作品を対象とした賞です（過去にホームレス状態を体験した人も含む）。小説、ノンフィクション、エッセイ等、散文であればジャンルは問いません。

一般の文学賞は受賞作を世に出すことを目的としていますが、路上文学賞は、書いた作品をできるだけ広く読んでもらうことを目指しています。その狙いとするところは、以下の2点です。

- ① ホームレス状態にある人は、常に他人の目を恐れながら生活しています。ですので、外に向かって話すとなると、えてして、一般に流通する「ホームレスのイメージ」を裏切らない物語をしてしまう傾向があります。「かわいそうな弱者」でないと、攻撃されやすくなるからです。路上文学賞では、自分の生活や考えていること、空想することなどを、自分の言葉で語ってもらいたいと思っています。「自分の言葉」とは、自分が日常で使っている言葉、自分の生活や人生を表すのに、自分がリアリティを感じる言葉です。路上には路上の日常生活があります。それを自分の言葉で書けたとき、書き手は普段とは違った充実を感じることでしょう。
- ② 書いた人と読んだ人、さらには賞を運営した人が、立場を離れて楽しめるお祭り空間を作り出すこと。

書くという行為は、自分から一歩外へ、自分の圏外へ身をさらすことです。読むという行為も、自分から一歩外に出て、他人の圏内に少しでも巻き込まれる行為です。どちらも、自分の外に出て、誰のものでもあり誰のものでもない同じ地平（＝路上）で、手探りで少しずつ歩み寄り、言葉を手がかりにして他人と関わる。それはすなわち、誰もが路上に繰り出し、立場を越えて入り乱れるお祭りである、というのが私たちの考えです。

最終的には、書き手も読み手も携わった人みなが参加者となって、非日常的な楽しさを味わえる祝祭的な催しとなることを目指しています。路上にいる人が書くというだけでなく、路上的な場に人々が飛び出して書いて喜び、読んで楽しむ、開かれたお祭りという意味も込めて、「路上文学賞」と命名しました。

受賞作品は、冊子で配布しているほか、路上文学賞のサイトでも読めます。また、サイトでは、第3回と第4回の応募作すべてが、元原稿の形で読めます。受賞作品以外にも、すごいパワーなので、ぜひ覗いてみてください！【URL】<http://www.robun.info>



【プロフィール】

星野智幸(ほしの・ともゆき)

1965年米国ロサンゼルス生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、2年半の新聞記者勤めを経て、2年のメキシコ留学。1997年、『最後の吐息』で文藝賞を受賞してデビュー。2000年『目覚めよと人魚は歌う』で三島由紀夫賞、2003年『ファンタジスタ』で野間文芸新人賞、2011年『俺俺』で大江健三郎賞、2014年『夜は終わらない』で読売文学賞を受賞。最新作は『呪文』。4巻本の自選作品集『星野智幸コレクション』を刊行中。

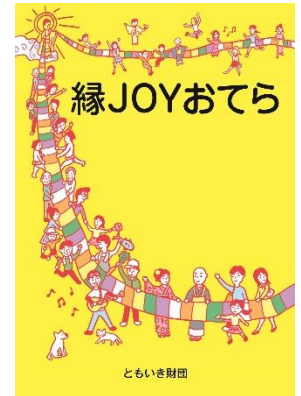
(公財)浄土宗ともいき財団



「社会事業宗」浄土宗。その象徴として100年前に設立された当財団では、ともに助けあい、支えあう「ともいき社会」の実現を目指してさまざまな公益活動を行っています。

お寺は人と人との縁を結び、みんながともにいきる場所です。地域の拠点となり、そこに住む方々を元気にするための取り組みをお寺から発信していきたいと考えています。

【URL】 <http://http://tomoiki.jp/>



冊子「縁JOYおてら」
(無料配布)

お寺から
まちおこし

- ・ 地域活性化
- ・ 助成

心のケア

- ・ 電話相談
- ・ 災害時支援

国際支援

- ・ 寺子屋建設
- ・ ミャンマー祭り



在日ベトナム仏教信者会

日本で暮らし、働いているベトナム人コミュニティの団結を固めるとともに、ベトナム文化の伝統と民族の特色、風俗習慣をしっかりと理解するため、日本で生まれ育ったベトナムの子供たちにベトナム語の能力をつけさせ、維持し、発展させることにつとめています。

また日本に留学して困難な状況にある留学生にも支援をしています。さらに、仏法の研究や精神修行においてベトナム仏教徒を導き、ベトナムの国家や人々を発展させるのに貢献するソーシャルワークに参加し、ベトナム仏教教会が日増しに力強く発展するよう仏事の支援を行ってゆきます。

今回のイベントではたくさんのベトナム料理(バインミー、フォー、揚げ春巻、デザートを予定)を提供しています。

コミュニティホーム ベてぶくろ



「ベてぶくろ」は、「べてる」と「いけぶくろ」をかけた名称です。ベてぶくろでは、その「べてる」が大事にしているものを受け継ぎつつ、東京・池袋をスタート地点として、共同住居やグループホームの運営、当事者研究、べてるの商品販売等をはじめ、独自の活動を広げています。

【URL】<http://bethelbukuro.jp>

池袋あさやけベーカリー



路上生活を経験したり、こころや身体に病気や障がいを持つ仲間と地域のパン屋さん、そしてたくさんの人とつながりはじめたパン屋です。

【URL】<http://ameblo.jp/asayakebakery>

オリジナル散華(入出証)



製作

社会福祉法人東京都知的障害者育成会
新宿区立高田馬場福祉作業所

〒169-0075 新宿区高田馬場4-10-2

【TEL】03-3367-2939 【FAX】03-3367-2960

【URL】<http://www.ikuseikai-ky.or.jp/~iku-takadanobaba/index.html>

デザイン

本秀康(漫画家、イラストレーター、チラシデザイン)

鴨井猛(イラストレーター、散華デザイン)

本イベントでは、チケット代わりに出入証として、オリジナルの手漉き紙の散華を作成しました。散華とは、仏さまを供養するときに撒く色とりどりの花びらのことです。

作成は、高田馬場福祉作業所(障害福祉サービス事業/就労継続支援B型)に作業委託しました。作業所がもともと作っていた手漉きのハガキを利用して、そこにカラー印刷を施したものを、作業所の利用者の方々にハサミで一枚ずつ丁寧に花びらの形に切り抜いてもらっています。

散華のもとになった手漉きのハガキは、実は使用済みの牛乳パックからできています。作業所の方々が一枚ずつ、いくつもの工程を重ねて、丁寧に作りくださった一品です。お持ち帰りになった後は、本のしおりなど、さまざまなご用途にお使いいただければ幸いです。



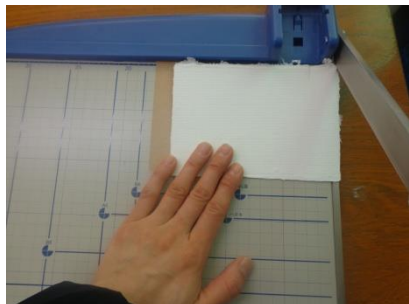
【作業①】牛乳パックから取り出したパルプをミキサーにかけるところ



【作業②】パルプから紙を漉いた後に、水分を絞っているところ



【作業③】紙を葉書サイズ大にしたものを窓ガラスに貼っているところ



【作業④】乾いたパルプを葉書サイズになるように切断しているところ



【作業⑤】葉書に両面カラー印刷したものを、散華の形にハサミで切っているところ



【作業⑥】切り終えて散華の形になったものをストックしているところ



りんりんふえすサポーター

協力

光照院(東京都台東区)

良感寺(東京都豊島区)

大蓮寺(神奈川県川崎市)

長昌寺(大分県杵築市)

長圓寺(東京都台東区)

本覚寺(青森県今別町)

法源寺(静岡県富士市)

光専寺(東京都武蔵野市)

常行院(千葉県松戸市)

心行寺(東京都府中市)

雲上寺(宮城県塩竈市)

認定NPO法人 ビッグイシュー基金

有限会社ビッグイシュー日本

認定NPO法人

自立生活サポートセンター・もやい

社会慈業委員会 ひとさじの会

浄土宗梅窓院

キーン・ジャパン合同会社

コミュニティホーム べてぶくろ

池袋あさやけベーカリー

高田馬場福祉作業所

公益財団法人 浄土宗ともいき財団

在日ベトナム仏教信者会

浄土宗新聞

看板・めぐり台の書

大善寺(青森県板柳町)

タイムテーブル



●一部公演

- 14:00～ 寺尾紗穂
- 14:30～ マヒトウ・ザ・ピーポー
- 15:00～ ソケリッサ！

●座談会

- 15:50～ ビッグイシュー座談会

●二部公演

- 17:30～ 原田郁子
- 18:00～ 知久寿焼
- 18:30～ 二階堂和美 ※20:00までに完全終了

【THE BIG ISSUE 座談会】

- ・テーマ
生きること、表現すること
- ・パネラー
寺尾紗穂 / シンガーソングライター
稲葉剛 / 認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事
- ・コーディネーター
吉水岳彦 / ひとさじの会事務局長、大正大学非常勤講師、浄土宗光照院副住職
- ・ゲスト
星野智幸 / 作家
アオキ裕キ / ソケリッサ！、ダンサー、振付師
小磯松美 / ソケリッサ！、ビッグイシュー販売者
横内真人 / ソケリッサ！、元ビッグイシュー販売者

※皆さまへのお願い※

当日、ホール内での**飲食は禁止**となっています。会場外もしくはロビーの飲食スペースをご利用くださいますよう、どうかよろしくお願ひします。